

チャイナリスクと中国富裕層

上海デスク 谷口 弘記

日中国交正常化から50年が経ち、そしてコロナ禍が明けて日中の往来も緩和、活発化されるであろうこの頃ですが、日中関係がどのようになって行くのか、今年はその方向性が決まって行く重要な年になりそうです。

さて、中国への輸出規制強化、ゼロコロナ政策のようにいつ起こるかかわからないロックダウンなど、様々なリスクを伴うようになってきている中国ビジネス。企業収益に影響を与えるだけでなく、最近では日本人が拘束されるという事態まで生じて来ました。それでも「中国市場は魅力的と捉えるべきか？」というのには常に問われてきたことですが、企業におきまして2023年度はその判断を本当に迫られる時期になるかも知れません。そしてこれらのチャイナリスクは外国企業だけに限らず、中国の民営企業や富裕層にも影響が出ていると言えます。今回は2014年に制定された所謂「反スパイ法」に拘束されないための予備知識と中国人富裕層はどこに向かうのかのお話をさせていただこうと思います。



高鉄の上海虹橋駅
中国市場はまだ魅力的？

日本より自由に見えるのは錯覚

中国は共産主義国家ですが、都会の街並みは日本のそれとあまり変わらないし、スーパーだって飲食店だって日本のそれとほぼ変わりはありません。なので日常生活で困ることはまずないです。夜になると繁華街は日本より賑やかであり、カラオケや演奏や接待を伴う飲み屋等は日本より自由に見える時があります。しかしそれはその時だけが自由に感じるのだという心構えが重要だと感じます。もしかしたら誰かが仕掛けた一瞬の自由という罠を満喫しているかもしれないからです。中国に長く滞在すればするほど中国に慣れては来ますが、その長さ分、情報を集められているのかもしれない。中国の監視社会を侮ってはいけません。また反スパイ法は今年中に更に厳しくなりそうです。

過剰に恐れない

しかしながら中国での生活を過剰に恐れる必要はないとも思っています。中国は中国のルールがあり、それに違反や違反に思われるようなことをしなければ良いのです。日本ではありませんからね。そしてそれにはコツがあります。

疑われないためのコツ

疑われないためにするコツを書いていきます。

①写真や動画をなるべく撮らない

これは鉄則です。中でも絶対に撮ってはいけないのは軍関連施設で、これには多くの空港も含まれます。

②中国系 SNS にはなるべく投稿しない

自分では問題のない投稿だったとしても誰かが不愉快に感じると通報されます。通報されたら調査対象となります。

③中国系 SNS 投稿に“いいねボタン”をなるべく押さない

もしその投稿が違反だったとしたら同様に調査され利用制限されたりします。

④ライブ配信はなるべくしない

違反なものが映るかもしれないからです。例えば未成年者が映っていたりすると調査され利用制限されます。

⑤SNS に中国語をなるべく使わない

中国語を使うということは中国人向けの発信だと確定されるからです。

⑥盗聴や尾行などなんとなくされているかもと感じたら、それは長年中国にいると何かしらされるものだ、守ってくれているんだと思うこと。

その方が気が楽ですし、焦って変な行動を起こしてしまう方が疑われるかも知れません。

富裕層はどこへ行く？

中国の富裕層は別のリスクも感じているようです。それはまたいつゼロコロナのようにロックダウンが行われるかわからないリスクです。それは勘弁してくれと思う富裕層は中国脱出を考えます。しかし簡単に脱出はできない。紙面の都合上詳細は省きますが、外国への送金が難しいからです。外国に投資を含め送金ができなければどうするか？国内に投資するしかありません。しかしこれまでのような不動産投資はリスクが高い。しかたなく将来有望な事業に投資を考えます。ここにビジネスチャンスがありそうです。高齢化社会を見据えた介護ビジネスや医薬品ビジネスなどは有望かもですね。



継続される“中国の夢、強国の夢”

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】

「ひょうご国際ビジネスサポートデスク通信」バックナンバー : <https://www.hyogo-kaigai.jp/supportdesk/>